

おお大勝利

平成 22 年度山東サッカー部報第 19 号 (10 月 5 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

県新人 第一ラウンド^が辛くも突破

10月2日(土)べにばなスポーツパーク第2運動広場、3日(日)山形商業グラウンドにて県新人大会第一ラウンドが開催されました。山東は先輩学年が県総体で頑張ってくれたおかげで、羽黒に続く第2シードからスタート。初戦は、山東サッカー部元顧問、ヌマシンこと名将大沼晋先生率いる楯岡高校。楯岡高校の県新人出場は久しぶりではないかと思いますが、赴任一年目で早くも結果を残すあたり、さすが大沼先生。三日前(9月29日)までテスト休みで9日間練習から遠ざかっていたことの影響がどこまであるのか、試合をしながら調子上げることができるのか、不安を抱えたまま試合開始を迎えました。

試合が開始されると、山形東にミスというよりも気の抜けた軽いプレーが見受けられ、最悪の立ち上がりを迎える。どんな状況でもハードワークを心がける、という点を確認して試合に臨みましたが、相手をリスペクトしていないプレーが初めから見受けられ、残念の一言。楯岡高校は中盤に技術のある選手がおり、山東のクリアボールを拾い、二次攻撃につなげている。開始5分は悪い時間帯。そんな中、逆襲から初めて楯岡ゴールに迫った攻撃が得点につながり、先制。もちろんうれしくない訳ではありませんでしたが、悪い立ち上がりの中の偶然の得点という感じがして、スカッとした爽快感がない。その後、この得点に気落ちしたのか楯岡の勢いが弱まり、山東が攻め立てる展開が続く、前半で4 - 0。後半は何名か入れ替えながら、2点を追加し、結局6 - 0。6点目は途中出場のカルロス(カル)ことダイゾーの豪快ボレーでした。カルはそれまでのプレーでミスを連発しており、8月のひざの手術からの復帰初戦だから仕方がないかと思われましたが、最後に見せ場を作るとは千両役者か。ちなみに同じく怪我で夏を棒に振った博愛は先発し、最終ラインを統率しました。試合後、大沼先生に「優勝してね」と言われましたが、現状では相当厳しいでしょうね。ともかく大沼先生、久しぶりに先生の試合中の檄を聞くことができてうれしかったです！！

3日の試合の相手は米沢中央を破った東海大山形。東海はボールを大切にサッカーをする点(サッカーの内容の点)で他の模範だと思いますが、選手たちのサッカーへの取り組みが真摯ですしサッカーを離れた所でもマナーの良いチームであり、この点でも他の模範のチーム。サッカーを通じて人間形成していく指導者の姿勢が表れている。技術的に劣っている山東としては、東海のパスサッカーに何とか喰らいついていくことが必要でしょうが、ボールを追いかけ回すだけで攻めのための余力が残らないとしたら、つまらない。攻撃でも良いところを作りたい。

試合が始まると、悪くない立ち上がり。サイドでヤマトやゴメがからんで攻勢に出る。「よしよし、今日は良い攻撃が見れそうぞ」と内心ほくそ笑む。しかし！徐々に山東の低い位置(山東ゴールに近い位置)でボールを奪われ、ショートカウンターを喰らうシーンが多発。MFも中盤でボールを奪われることが多い。というか、東海の出足が鋭く、ヘディン

グは強いし、ボールを長く保持できない。対して東海の選手はボールを落ち着いてキープできる選手が多く、山東のプレスが冷静にはがされていく。押し込まれ続ける山東。東海強し！！そんな中、後ろにいる敵を欺く東海FWの「おしゃれなプレー」に山東DFが全く反応できず、簡単に抜かれてしまい、なんだかんだで結局ゴールを決められてしまう。0 - 1で前半終了。悪い時間はあると思っていましたが、一方的過ぎる前半で正直ショックでした。

後半も東海FWへの正確な楔のパス¹、そしてそのFWがしっかり攻撃につなげるものだから、劣勢。山東DFとMFの間にポジションを取る選手へのケアが全くできておらず、課題を残しました。攻撃ではFWが孤立するシーンが多く、FWのためを分厚い攻撃につなげることができない。終盤に近づくと、焦る山東による攻撃シーンが多くなりますが、アイデア不足・技術不足でネットを揺らすことができない。サイドから攻めるシーンが多かったのですが、サイドを抉ってマイナスのボールを入れるまでには至らず²、真ん中でしっかり対応されてシュートまで行かない。時間がなくなってきており、ベンチでは内心、負けを覚悟していました。単に得点が入っていないだけでなく、すべての面で、東海が一枚上手のように見えました。「一年生が7人くらい入っている東海新人チーム、強い！来年はもっと楽しみだな（敵としては苦しい）」などと考えて、試合終了を迎える心の準備をしていると、破れかぶれのセンターリングに反応した山東FWがペナルティ・エリア内で倒され、PKゲット。正直ベンチから見ていて誤審に見えましたが、FWの話だと確かに倒されたとのこと。だとしても微妙な判定だったと思います。難なくPKを決めて同点に。するとすぐ試合終了のホイッスル。終了間際の起死回生の同点劇となりました。内容の伴った戦いとはいえない70分ではありましたが、最後まであきらめなかった姿勢が報われたとはいえるでしょう。

延長では相変わらず東海FWに仕事をされてしまい、押され気味ではありましたが、さきの70分よりはマシな展開だったと記憶しています。そして20分も終わりに近くなり、PK合戦かと思われました。作戦盤を取りだし、5名のキッカーを選ぼうかという気持ちが頭をかすめました。経験上こういうことをすると実際にやられることがあり、ぐっと我慢。するとDFのこれまたやぶれかぶれのロングパス（パス？）が、DFのギャップを突きFWへ渡る。敵DFはあまりにやぶれかぶれパスだったため、まさか来ると思わなかったか、対応が遅れ、FWは独走。追いかけてきたDFをかわしGKと1対1に。それを冷静に流し込み、山東の逆転。まさか、まさかの逆転となりました。そして2 - 1のままタイム・アップ。運を味方につけた勝利となりました。うなだれる東海イレブン。ベンチではとても悪いことをした気持ちになりました。この場を借りて言っておきます。東海の選手諸君、勝利すべきは君たちでした、ただ運・ジャッジに恵まれなかっただけです。

山東の選手諸君よ、東海の選手の悔しい気持ちを受け止め、次、大事な戦いをしような！応援よろしくお祈いします。

10月10日（日） 県新人準決勝 VS 米沢工業 15:20～ @天童第二（人工芝）
勝つと 11日（月） 決勝 12:20～ 負けると 第三代表決定戦 10:30～ @同上

¹ 主にFWの足元へ縦パスを入れることをサッカー用語で「楔を入れる」と呼びます。「ポストに当てる」と同義語です（受けたボールをポストが味方に渡す行為はポストプレーです）。正確には楔を打つ（打ち込む）なのでしょうが、サッカー用語ではあまりそう呼びません。

² サイドを抉って（ゴール両脇の敵陣深くまで行って）、マイナスのボール（バックパスとまでは行かないまでも横パスというより自陣側に近づくボール）を送ると、守備側選手はボールとマークを同一視しづらくなるのでマークを離れてしまいがちだし、ボールを受ける攻撃側選手も前から来るボールはシュートしやすいので、大チャンスにつながるが多くなります。